

第 9 号	令和7年12月5日 松山市立湯山中学校	
	【学校の教育目標】 笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成	

○校長室より「人権が尊重される社会。それが当たり前」 校長 池田 秀彦

早いもので暦は12月、師走となり、2学期もあと3週間ほどとなりました。この頃は、朝の気温も10℃を下回る日が多くなり、校内の各教室においても暖房が稼働し始めました。また、時折の強い風の影響で、校庭の木々の根元には、たくさんの落葉がまるで絨毯を敷いたように積み重なっています。この湯山にも冬の気配が様々なところで感じられるようになってまいりました。

さて、今年は大谷翔平選手の活躍が話題となりました。シーズンオフとなった現在でも、もうすでに来年のWBC（野球大会）への参加について注目が集まっているそうです。WBCと言えば、3年前の前回大会では、大谷選手と並んでラズ・ヌートバー選手の活躍も強く印象に残っています。その時、野球の日本代表「侍ジャパン」では日系選手が代表に選ばれるのは初めてのことだったそうです。侍ジャパンの栗山英樹監督は、就任当初から「グローバル化する世の中で、そういう人たちが仲間として『普通にいる』ということ、子どもたちに伝える責任がある。生まれた国は違っても、育った環境が違っても、同じチーム。仲間として受け入れる。それが当たり前にならないとおかしい。」と話していました。その言葉の通り、アメリカ育ちで面識もほとんどなく、日本語をあまり話せないヌートバー選手に対して、選手たちがヌートバー選手のミドルネーム「達治」にちなみ、「たっちゃん」と印字されたTシャツを着て歓迎したり、ヌートバー選手の「ペッパーミル・パフォーマンス」を大谷選手らがそろって真似をしたりしました。そして、日本選手から積極的に英語で話しかけられたヌートバー選手は、日本語を覚えようと努力したり、チームワークを深めるために呼び掛けられた食事会（ミーティング）に積極的に参加し、毎日いろいろな話をしたりしたそうです。お互いを思いやり、理解を深めようとする姿は、チームのよい雰囲気をつくり、日本の優勝につながったことは間違いありません。勝利を目指して戦う姿を見せるだけではなく、栗山監督が目指した「当たり前のこと」をしっかりと伝えてくれたように思います。

先日、本校で行われた文化祭の中で、生徒の力で人権劇が熱演されました。生徒一人一人の思いがステージいっぱいに表現され、観ている生徒や保護者、地域の皆様にも、人権に対する熱いメッセージを届けることができたのではないかと思います。そして、湯山中生が一つの同じチームメートとして、「人権が尊重される社会。それが当たり前」を強く感じてくれたように思っています。

最後になりましたが、今学期も様々な体験にご協力いただきました保護者の皆様、地域の皆様、ありがとうございました。今月は今年の総まとめをし、来年を生徒が新たな気持ちで迎えられよう全職員で支えていきたいと思っています。今後も変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

○湯山中文化祭「人権劇」の振り返り

人権劇のスタートは5月、全校生徒を対象に役者とスタッフの募集から始まりました。募集に対して約50人もの生徒が説明会に集まり、オーディション等を通して、人権劇に向けての意気込みを一人一人確認し、担当する係が決まっていきました。その後、放課後の空いている時間帯を利用しながら、約半年間練習を積み重ねていきました。何度も修正や工夫を繰り返し、気持ちを込めて作り上げていった作品だけに、携わった生徒や教員の思いはとても強いものになっていきました。まるでそれは、一つの大きな家族のようでした。



【初顔合わせ(5月)】



【台本読み合わせ(6月)】



【伝える演技の練習(9月)】

全校生徒の感想を読むと、改めてその感動がよみがえります。登場人物の心情や命の尊さ、自分の人生を生きること等、多くの生徒が深く感じ取ってくれたことが伝わり、とても嬉しく思います。

◎みんなの演技がとても上手で驚きました。どれだけ練習を頑張ってきたのだろうと感動しました。僕は、人権劇を見て、命さえあれば何事にも挑戦することができて、乗り越えることができるのだと考えさせられました。運命が生まれる前から決まっているのなら、今できることを一生懸命頑張るしかないと思いました。そして、頑張った結果が自分の思うようにいかない時も、その結果には意味があり、未来につながっていくと感ずることができました。
(1年生の感想)

◎生まれてくる確率は、とても低くて奇跡のようなものなので、生きることはとても大切で運命や未来は自分自身で変える、つくることができるから、懸命に生きてほしいという願いが込められていると思いました。気付いたら自然と涙がでていました。この先の運命が分かっている、不安でいっぱいだけど頑張りたいと強く思い、生きていく選択をした緑ちゃんは、本当に立派だと思います。生きられなかったのは悲しいけど、3人には緑ちゃんの分まで生きていてほしい、少しでも幸せを感じられる日々を過ごしてほしい、夢をあきらめないでほしいと思いました。素敵な作品をありがとうございました。
(2年生の感想)

◎今回の劇では、「命」について深く考えさせられました。劇が始まるまでは『グッドバイ・マイ・・・』というタイトルがどういう意味なのか分からなかったけど、劇が終わったらその意味が分かった気がしました。黄郎は、片方の手がないという未来を知らされて、未来に不安を抱えていたけど、結局自分の未来に希望を持って生きるという道を選んだことが印象に残りました。これから不安になったり大きな壁があったりしても、希望を持って生きていきたいです。
(3年生の感想)



【役者による熱演】



【スタッフのカーテンコール】



【文化祭を終えて】

〇いじめ STOP デイ plus (1年生)

「いじめ STOP デイ plus」は、愛媛県内の全ての小中学校で一斉に行われる授業です。11月20日に、本校の1年生がいじめについて真剣に向き合い、自分たちにできることについてじっくりと考える時間を持ちました。オンラインで繋がった他の小中学校の話し合いを聞きながら、「いじめ STOP 宣言～私にできること!」として、一人一人が行動の意志を言葉にまとめていきました。

◎「教室の雰囲気を変えられるよう、明るくみんなに対して平等に接する」

他の学校の人たちの意見を聞いて、自分ができることについて考えることができました。やはり、教室の雰囲気は大切だと思いました。人間関係をよりよくするために、これからはよく考えて行動したいです。

◎「友達とケンカしたら正直な気持ちで解決する」

いじめは意見のすれ違いで起こることが分かったので、気を付けていこうと思いました。いじめは、お互いに無視などせず、信頼関係をつくっていけばなくなると思います。



【全体会をテレビで視聴】



【オンラインで他の学校と】



【私にできることのまとめ】

○思春期教室（１・２年生）

11月20日と28日の総合的な学習の時間で、県立医療技術大学から講師の方をお招きし、「思春期教室」を行いました。「思春期教室」では、性に関する科学的に正しい知識について学びます。自分の「こころ」と「からだ」に関することは自分で決める力があるということ、そして自分も相手も大切にできる人を目指すことを目的に行われました。自分の命が生まれ、ここまで育ってきたことの尊さについて考え、自分自身を大切に思う気持ちを深める時間となりました。講師の先生ありがとうございました。



【講義の様子（２年生）】



【講義を受けての授業（１年生）】

◎先生の話聞いて、心が少し軽くなったような気がしました。本当はこう伝えたいのに言えなかったり、やめてと言いたかったり言えなかったりすることは、誰もが経験することだと思います。話し合いでも尊重という言葉がたくさん出てきました。自分、相手の考え、個性を尊重したいです。（２年生の感想）

○「さわやか体育大会」に参加しました（いぶき・せせらぎ学級）

11月13日に、いぶき・せせらぎ学級の生徒が、「さわやか体育大会」に参加しました。この大会は、松山市内の小・中学校の特別支援学級の児童生徒が一堂に会して行う、年に一度の体育大会です。当日の朝、生徒は緊張の面持ちで愛媛県武道館に向けて出発して行きました。それでも、会場に到着して開会式を終えると、それぞれ真剣な表情で各種目に参加し、全力を尽くして最後までやり遂げました。中には、素晴らしい走りを披露し、種目で第1位を獲得できた生徒もあり、みんな満足いく表情で大会を終えることができていました。また、大会後には、大玉送りやレクリエーションダンスなど、他の小中学生とみんなで協力しながら楽しい時間を過ごしました。



【緊張の個人種目スタート前】



【1走目を担当した大玉送り】



【レクリエーションダンス】

○ようこそ「給食試食会」へ（PTA 家庭教育部会）

11月14日に、PTAの家庭教育部会による「給食試食会」を実施しました。昨年度に続き、今年も多くの方の皆さまにご参加いただき、大変好評でした。学校給食は、調理場の職員さんや本校の栄養教諭が、中学生の成長と健康を第一に考え、毎日心をこめて給食を作っています。

当日は、栄養教諭からの説明のあと、調理場での工夫や調理の様子を紹介され、和やかな雰囲気の中で実際に給食を味わっていただきました。健康は何よりの宝です。皆さんに喜んでいただき、何よりでした。ご家庭でも、ぜひ給食のことを話題にしてみてください。

【参加された方々の感想】

◎どれもおいしかったです。体に良い食事ができて、体調が整ったような感じがします。特に好きだったのはひじきご飯で、優しい味の上に色んな栄養がつまっていました。アクセントの枝豆がとても良かったです。きめ細かい作業や準備を毎日ありがとうございます。改めて感謝です。子どもの成長に必要な栄養や食べ物の話も聞けて、とても勉強になりました。



- ◎つみれ汁がとてもおいしかったです。取り入れてほしい献立は、世界の郷土料理です。世界旅行はなかなか行けないので、食べ物でその土地へ行った気分になれるといいなと思います。
- ◎体が喜ぶメニューでした。とてもおいしかったです!(子どもも毎日「おいしかったー!」と教えてくれています。)愛媛県産、国内の野菜を使われているとの事で、とても良いなと思いました!細かい気くばり、考えられたメニューに感謝です。いつもありがとうございます。
- ◎つみれ汁がいわしの風味が出ていてとてもおいしかったです。3品ともたくさんの食品が使われていて、栄養たっぷりですごく体に良いと感じました。VTR から、作る工程での安心・安全面をしっかりとされていると知り、今まで以上に給食のありがたさを感じました。ありがとうございます。ごちそうさまでした。



【給食の配膳】



【メニューの説明】



【試食会の様子】

○人権を考える日(「人権集会」と「人権・同和問題学習」授業)

11月26日を、今年度の本校の「人権を考える日」として設定し、人権集会と人権・同和教育の視点に立った道徳科の授業を行いました。

人権集会では、まず人権作文、人権標語の発表が行われ、代表生徒が自分たちの考えを堂々と全校生徒に向けて発表しました。その後、「友情の輪宣言」をみんなで唱和し、幸せメッセージを紹介し合ったり、絵記号クイズで話し合い活動を行ったりしました。また、道徳科の授業では、生徒は生活の中にある不合理や矛盾・差別に気付いたり、様々な人権問題に対する理解を深めたりしながら、差別や偏見を解消していく気持ちを、より一層高めることができていたようでした。

一年生	人権標語	◎「それでいい?」伝える言葉 見直して ◎自分自身 好きになるのは 自分から
	幸せメッセージ	◎一人になる人がいないように、声をかけたり言葉遣いに気を付けたりする。 ◎自分がされて嫌なことは人にしない。やられてもやり返さない。
二年生	人権標語	◎「大丈夫?」届いているよ 君に声 ◎気付いたなら 相手に寄り添う 一言を
	幸せメッセージ	◎気付いた人が傍観者にならず助けること。 ◎人の嫌いな所に注目するのではなく、人の良い所に注目してみるといいと思います。
三年生	人権標語	◎大丈夫 長所も短所も 君だから ◎助け合いの輪 広げていくのは あなたから
	幸せメッセージ	◎先生や友人に相談できる環境にすること。 ◎自分と他人を認める。



【人権作文の発表】



【絵記号クイズ】



【道徳科の授業の様子】